

2024年

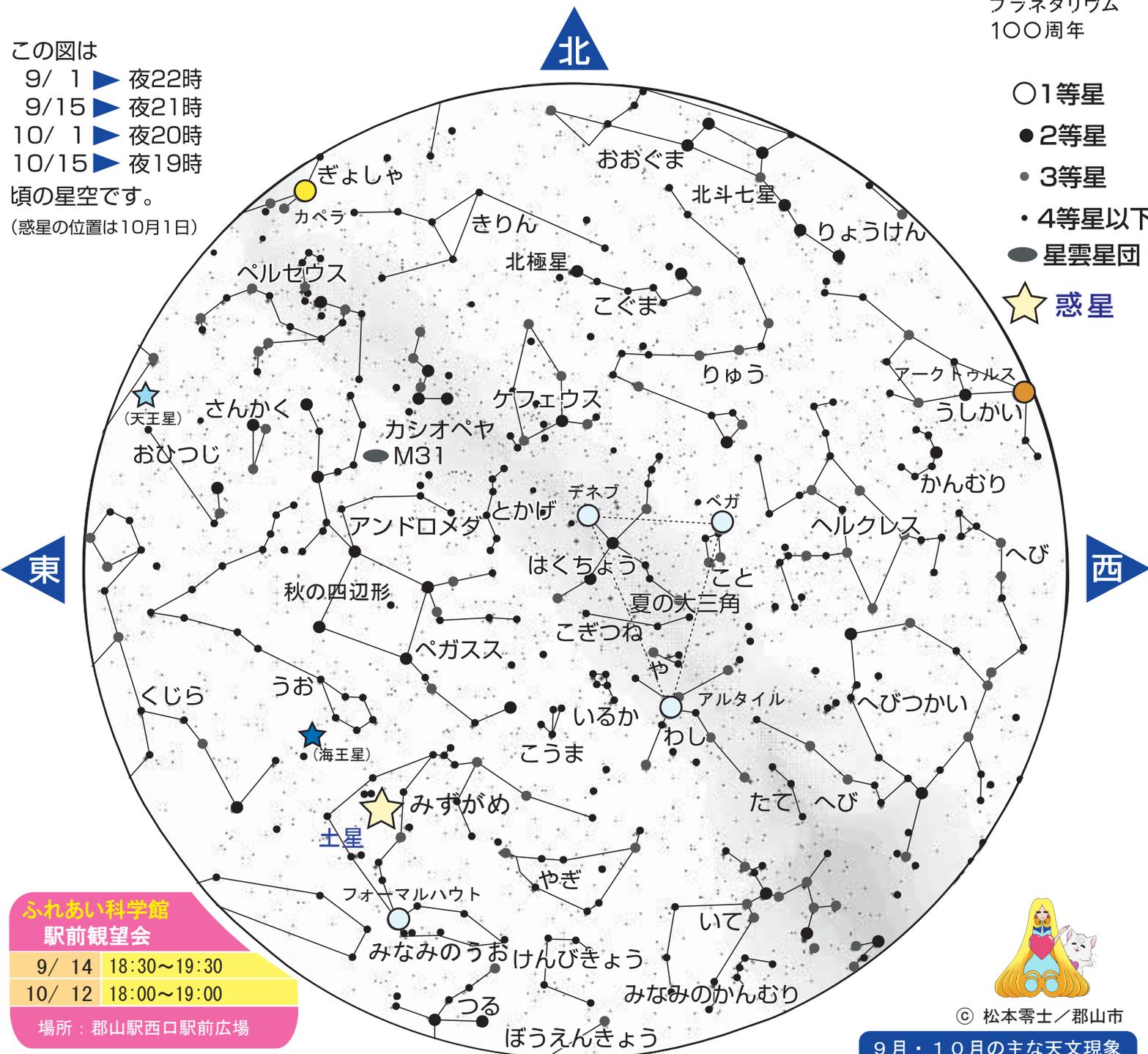
9月▶10月の星空



プラネタリウム
100周年

この図は
9/ 1 ▶ 夜22時
9/15 ▶ 夜21時
10/ 1 ▶ 夜20時
10/15 ▶ 夜19時
頃の星空です。
(惑星の位置は10月1日)

- 1等星
- 2等星
- 3等星
- 4等星以下
- 星雲星団
- ★ 惑星



ふれあい科学館

駅前観望会

9/ 14 18:30~19:30

10/ 12 18:00~19:00

場所：郡山駅西口駅前広場



© 松本零士/郡山市

9月・10月の主な天文現象

- 9/ 8 土星が衝
- 9/17 中秋の名月
- 9/22 秋分の日
- 10/15 十三夜

星図ダウンロードは
こちらから



※上弦、下弦は半月です。
※天王星、海王星は肉眼では見えません。

郡山の日の出・日の入		
9/ 1	5:06	18:10
9/15	5:18	17:49
10/ 1	5:31	17:25
10/15	5:44	17:04

月の満ち欠け		
新月	9/ 3, 10/ 3	
上弦	9/11, 10/11	
満月	9/18, 10/17	
下弦	9/25, 10/24	

季節のうつろいとともに夏の星座が西へと傾き、東の空から秋の星座が昇ってきています。ペガサス座の胴体にあたる「秋の四辺形」は秋の星座を探す目印になります。その四辺形の右側の辺をまっすぐ下へ伸ばすと秋の唯一の1等星「フォーマルハウト」を見つけることができます。フォーマルハウトが輝くみなみのうお座とペガサス座の間には、美少年ガニメデスが水瓶を担いだ姿のみずがめ座があります。今年はここに土星が見えており、衝を迎える9月8日は観察の好機となります。衝とは、地球から見て天体が太陽とちょうど反対側になるタイミングで、日の入りごろに東の空から昇り、日の出ごろに西の空に沈むため一晩中観察することができます。望遠鏡では環の様子も楽しむことができ、環がほとんど見えなくなる2025年に向けて今年はずいぶん環が細く見えています。環の見え方(傾き)が15年周期で変化するため、その年ごとに環の表情が変わって見える面白い天体です。

9月17日は「中秋の名月」です。旧暦の8月15日の夜に見える月を中秋の名月といい、ここ数年は中秋の名月と満月が同じ日でしたが、今年は1日ずれています。また、日本では「十三夜」と呼ばれる2回目のお月見の習慣があります。十三夜は旧暦の9月13日の夜のことをいい、今年は10月15日です。夜空を見上げ、ゆったりと月を愛でてみてはいかがでしょうか。

